
執筆者一覧

山本 博之 (やまもと ひろゆき)

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。専門は東南アジア地域研究／メディア研究。研究テーマは、ナショナリズムと混血者・越境者、災害対応と社会、混成アジア映画。映画に関連した編著書に『マレーシア映画の母 ヤスミン・アフマドの世界——人とその作品、継承者たち』(シリーズ「混成アジア映画の海」1、英明企画編集、2019年)、*Film in Contemporary Southeast Asia: Cultural Interpretation and Social Intervention* (Routledge, 2012) がある。混成アジア映画研究会代表。

岡田 知子 (おかだ ともこ)

東京外国語大学総合国際学研究院准教授。専門はカンボジア文学・文化。共編著書に『カンボジアを知るための62章』(明石書店、2012年)、『世界を食べよう!』(東京外国語大学出版会、2015年)、翻訳に『追憶のカンボジア』(同出版会、2014年)、『萎れた花・心の花輪』(大同生命国際文化基金、2015年)など。

西 芳実 (にし よしみ)

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。インドネシアを中心に多言語・多宗教地域の紛争・災害対応過程を研究。主著は『災害復興で内戦を乗り越える——2004年スマトラ島沖地震・津波とアチェ紛争』(京都大学学術出版会、2014年)。映画関連では「信仰と共生——バリ島爆弾テロ事件以降のインドネシアの自画像」や「世界にさらされる小さな英雄たち」(共に『地域研究』13(2)、2013年)。映画で東南アジア社会の課題共有をはかるシネアドボ・ワークショップにも取り組む。

亀山 恵理子 (かめやま えりこ)

奈良県立大学地域創造学部教員。専門分野は国際開発協力論、地域研究。主な著作に、「『小さな物語』をつなぐ方法——一九七五～一九九年東ティモール紛争」(牧紀男・山本博之編著『国際協力と防災——つくる・よりそう・きたえる』京都大学学術出版会、2015年)、『インドネシア九・三〇事件と民衆の記憶』(ジョン・ローサほか編、明石書店、2009年、翻訳)。

平松 秀樹 (ひらまつ ひでき)

京都大学東南アジア地域研究研究所連携准教授。京都大学文学部卒、チューラーロンコーン大学大学院比較文学科修士課程修了、博士(文学、大阪大学)。専門は、タイ文学・文化、日タイ比較文学・比較文化、タイ地域研究。タイ国仏教教理三級国家試験(ナックタム・トゥリー)合格。仏教およびジェンダーの観点からみた比較文学・文化研究に関心がある。共著に『東南アジアのポピュラーカルチャー』(福岡まどか・福岡正太編、スタイルノート、2018年)など。

橋本 彩 (はしもと さやか)

早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程満期修了退学(博士、人間科学)。現在、東京造形大学准教授。専門は、スポーツ人類学、文化人類学、ラオス地域研究。主著は『ラオス競漕祭の文化誌——伝統とスポーツ化をめぐって』(めこん、2020年)。共編著書に『スポーツ人類学の世界』(虹色社、2019年)。近年はラオス映画の研究にも関心を持って取り組んでいる。